

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	272701178		
法人名	社会福祉法恵生会		
事業所名	グループホーム三老		
所在地 (電話番号)	〒039-0103 青森県三戸郡南部町大向字仙ノ木平42番地 (電話) 0179-22-1252		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成 19年 9月 26日	評価確定日	平成 19年 12月 12日

## 【情報提供票より】(平成 19年 9月 1日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 1月 5日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15 人, 非常勤 人, 常勤換算 15 人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	22,500 円	その他の経費(月額)	4,500 円
敷 金	有( 円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 250 円	昼食 300 円	
	夕食 350 円	おやつ 円	
または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要( 9月 1日現在)

利用者人数	17 名	男性 4 名	女性 13 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名
要介護3	5 名	要介護4	5 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 84 歳	最低 67 歳	最高 99 歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	滝沢胃腸科外科医院・佐藤歯科医院		
---------	------------------	--	--

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

果樹園に囲まれた場所にあり、併設されている老人ホームやデイサービス施設においては地域住民にとって長年の愛着もあり、ともに信頼されているグループホームである。介護に関する知識や技術の向上に対しての熱意があり、入居者一人ひとりの心身状態を把握し、適切な介護サービスの提供が行われている。
---

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	生活空間作りが改善課題として挙げられていたが、部屋の番号や氏名が入居者が解り易いように明記されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	具体的な改善計画を作成するなど、全職員一丸となって質の確保や向上を図ることを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では報告が主となっており、メンバーからの意見の反映が少ない傾向が見られている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)
	投書ボックスを設け、意見・要望を入れていただくようにしている。個別の面会簿に意見要望を記入する欄を設け、家族が率直に意見を言えるような体制作りに努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し回覧板を回すことで地域住民と事業所の関係を深めている。地域行事に積極的に参加し、地域の中学生との交流も行われている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設当初の理念に基づきサービス提供されている。	○	理念の見直しを検討していることなので、地域生活の継続や地域との交流に関する内容も取り入れ、地域密着型サービスの役割を理念に取り込むことに期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回のミーティングや研修会で理念について話し合ったり、ホーム内の見やすい場所に掲示し、いつでも意識しながらケアできる体制である。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	町内会に加入し回覧板を回すことで地域住民とホームの関係を深めている。地域行事に積極的に参加し、地域の中学生との交流も行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	5	評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義を職員に伝えてから自己評価に取り組んでいる。結果はミーティングで報告し、改善に向けての話し合いをしている	○	具体的な改善計画を作成するなど、全職員一丸となって質の確保や向上を図ることを期待したい。
5	6	運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告が主となっており、メンバーからの意見の反映が少ない傾向が見られている。	○	運営推進会議の意義を理解し、第三者による意見を率直に引き出し、地域の協力を得ながら更なる質の向上に活かすことが期待される。
6	7	市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	課題解決に向け相談しているが、市町村とともにサービスの質向上を図るまでの関係作りはできていない。	○	地域密着型サービスを適正に運営していくため、市町村の理解や支援が必要である為、ホームの考え方や実態を共有し合い、協議しながら課題解決していくことに期待したい。
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	今まで成年後見制度や権利擁護事業利用が必要になったケースがない為、職員は理解できていない。	○	定期的に勉強会を開催したり、研修の場を増やし、職員の理解を深め、必要時に全職員が対応できる体制の構築を目指すことを期待したい。
8	9	虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加した職員が伝達研修を行い、職員全員で高齢者虐待法を学ぶ機会を作っている。	○	研修会に積極的に参加して伝達研修の実施などの取り組みはとても評価できる為、今後は内部でのルールやマニュアル作りにも取り組んでいくことに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
9	10	契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明を納得していただけるまで丁寧に説明している。利用者や家族の不安等についても伺い対処している。		
10	12	家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月1回ホーム新聞を作成し家族にホーム内での様子を報告している。面会時にも暮らしぶりを伝えたり、金銭管理出納帳の確認ももらっている。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	投書ボックスを設け、意見や要望を入れていただくようしている。個別の面会簿に意見要望を記入する欄を設け、家族が率直に意見を言えるような体制作りに努めている。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はホーム内のユニット間で行われ、最小限に抑えられている。異動の際は利用者の情報交換を密に行い、利用者へのダメージを最小限に抑える取り組みが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
13	17	職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加する機会を増やし、2ヶ月に1回研修報告会を実施しており、職員間で情報交換を行っている。		
14	18	同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協議会、八戸地区グループホーム協議会に加入している。	○	同業者との連絡強化は、職場内での行き詰った悩みの解消や連携をスムーズにするなど、水準の向上につなげていくことに期待したい。
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
15	23	馴染みながらのサービス利用  本人が安心し、納得した上でサービスを利用するため、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族から聞き取りした情報を基に居室の配置、雰囲気作りを行い、他利用者と接する際は職員が間に入り少しづつ馴染めるように配慮されている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の苦しみや喜びを共感するように努めており、利用者と職員が共に楽しめる行事を行うなど、一緒に生活する同士として、お互いに協働しながら和やかに生活できるような配慮や場面作りが感じられる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
17	30	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な利用者との関りの中で、言葉や表情、行動等の観察にてその真意を推し測り、職員間で話し合いを実施し、より良いケアに繋がるように取り組まれている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族より日々の関りの中で要望等を確認し、反映出来るように、職員全員でアセスメント・モニタリング、カンファレンス等を実施し、介護計画の作成が行われている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画における現状、効果等を確認、評価すると共に家族や本人の変化、介護記録等を考慮しつつ、要望に応じて見直しを行い作成されている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況及び要望に応じ、通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応し行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
21	40	かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望する医療機関を受診しており、受診や通院等において、家族の付き添いが困難な場合には、職員による代行を行い受診結果の報告等がなされている。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の利用者を支える為、医師と職員等における連携をとっており、対応内容については家族へ説明し、取り組まれている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング等を通じ、利用者一人一人のプライバシーの確保について具体的に事例等を用い話し合いをし、プライバシー確保についての意識向上が図られている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れは持っているが、時間に即した生活はしておらず、一人一人の体調等に配慮し、意向を尊重した支援が行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のADLやIADL等の低下により、一緒に買い物や調理等は行われていないものの、片付け等においては共に行われており、利用者の可能な範囲で出来る事を模索しながら行われている。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴支援は週2回実施している。入浴日については掲示物や伝達等にてお知らせし、入浴を楽しめるように支援が行われている。	○	入浴日や希望する時間等、本人のこれまでの生活習慣や希望にあわせた入浴支援が出来る事が望ましい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人からの希望等がある場合、支援が行われている。又、簡単な作業等を利用者にお願いしている。	○	職員側がプログラムした内容や役割を利用者に楽しんで頂いている部分もあるが、今後において、利用者の習慣・希望など踏まえ、何がその人の役割・楽しみごとになり得るかを把握し、支援していく事が望ましい。
28	58	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望に応じ、敷地内において散歩等の支援が行われている。	○	敷地内の散歩のみならず、その利用者の馴染みの店や、場所など戸外へ出るように支援する事が望ましい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	62	身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修への参加及び内部研修等を通じ、身体拘束に対するケアについて職員の共有認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組まれている。		
30	63	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出の気配を見落とさないよう見守りに心がけ、安全面等に配慮し支援が行われている。		
31	68	災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回利用者と一緒に避難訓練が実施されており、又年2回消防署の協力のもと総合訓練を実施している。内1回は地域の住民の方も含め行われている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士が作成した献立を見本とし、栄養バランスを考慮している。又、摂取量を記録表に記録し、大まかに摂取量を把握している。		
33	75	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、M R S A、ノロウイルス等)	感染症への予防の為、利用者及び家族の同意のもと、利用者にはインフルエンザ予防接種を受けて頂いており、職員も予防接種を受けている。又、ノロウイルス対策として、ペーパータオル、プラスチック手袋等を使用し感染症に対する予防に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>					
34	78	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテンなどを利用し、光に対する配慮がされている。季節に応じた装飾がなされている。	
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や使い慣れた家具、日常生活用品等が持ち込まれており、利用者にとって居心地の良い居室への配慮がされている。	

 は、重点項目。